

「共同店の地理的立地状況」

宮 城 能 彦（代理発表）

※なお、上原 富二男による調査資料は、冊子末尾に掲載

司会 それでは第二報告、地理学の上原先生からのご報告をいただく予定でしたが、そのようなご事情がございましたので、そのデータの紹介を宮城先生の方からしていただきます。ここで本来の立地状況あるいは分布、それからこの25年間の変遷というものを説明されていたのだらうと思います。じゃ10分ほどで地図とマッピング等を説明していただきたいと思います。よろしくをお願いします。

宮城 どうも、宮城です。上原先生が身内の不幸で出られないということで私が代わりに報告させていただきます。

上原先生が作ってくれた共同売店の分布図をみてください。赤い点が、現在も残っている共同売店です。ちょっと暗い色、青や緑が既に廃止した共同売店です。そういった色の分布から、おおよそのイメージがつかめると思います。

地図に対してちょっと丸いマークが大きすぎるので、イメージしか掴めないと思うのですが、おおよそのことはこれでおわかりいただけると思います。

こうしてみますと、現在も経営しているのは、国頭村、東村、大宜味村、そして名護市の東海岸、旧久志村あたりだとわかんと思います。そして、伊是名島、伊平屋島、西表島、波照間島、そして石垣島にまだ残っています。

石垣島の東海岸沿いにいくつかの共同売店が残っております。これはだいたいにおいて大宜味村の入植者が多い所です。大宜味村でやっていた共同売店の経営形態をほぼそのままやっているというか、やろうとしているという特徴があります。

沖縄本島の中南部を見てみますと、現在、与勝の離島の方には赤いマーク、すなわち現在も経営している共同売店があります。しかし具志川から勝連にかけて青や紫の丸がずっと続いています。すなわち、このあたりには、戦後も復帰ごろまではこんなにたくさん分布してたのですね。しかし、現在はほとんど残ってない地域です。これが中部から南部にかけての現状です。

つい最近までは南部の玉城村にも残っており、沖国大による20年前の調査による詳しい報告があったんですけども、現在はほとんど残ってない地域です。

ここで、イメージをつかんでもらうために、共同売店の写真をパツパツと幾つかお見せします。たとえば、こういうふうには非



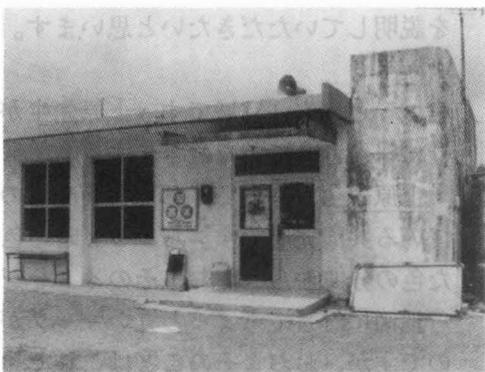
常にこじんまりとした、民家をちょっと改装したような共同売店から、このように、スーパーというか下の方に共同売店と書いてありますけどもスーパーみたいな大きな共同売店もあるわけです。

これは石垣市明石地域総合施設です。中に自動販売機が見えると思うのですが、全く同じ建物の中に共同売店があるという例です。この写真は、有名な安波ですね。ご存じの通り、安波は、ドライブがてらにパンや飲み物を買うのに非常にいい所にあります。北部の山道を、そろそろ休憩しようかなという所にあつて、車がひっきりなしに止まって買い物して行くような所です。これは東村の高江もそうです。高江もアップダウンの激しい所で、ドライブの中継地としては非常に立地条件のいい所であり、かなり外部の人が買って行くという所です。

これは石垣の小さな共同売店です。大きな共同店と、このような本当に小さな共同店では見た目でも大きな差があります。

東村の慶佐次の場合にはこういうふうには、「ドライブに寄って下さい」という大きな看板があつて、しばらく行くと共同売店が現れるようになっていきます。最近では、向かい側にヒルギの公園ができて、そこに訪れる団体客、観光バスが本土からもごっそり来ますので、その人達がほとんどここで買って行くということで、とても繁盛しているようです。詳しくは後で小林先生からの報告があります。イメージとしてそんな感じなんです。この写真は、聞き取り調査中のものです。これはご愛嬌ですけど、ちゃんと話聞いて調査してますよ、という証拠写真です。では、電気をお願いします。

共同売店の分布については、今地図で見



てもらいましたけれども、それを表にしたのが上原先生のレジユメの右側にあるものです。これ見てもだいたいイメージは掴めると思います。要するに白抜きの○とか□とかありますけども、白抜きの部分が現在経営している共同売店ですね。それに対して黒い●あるいは▲とかそういったものはもうなくなってしまった共同売店です。

それから、丸いのが後で私の報告でも出てきますけども、直営の共同売店。だから白くて丸いのは直営で現在も経営を行なっている所。黒い●はかつて直営だったけども今はもうやっていない共同売店です。ざっと見てわかると思います。国頭村の場合には丸い形でそれから白抜きが多いですよ。大宜味村の場合には四角で白抜きが、要するに存続して請負という形で存続していると。それから東村の場合には四角が多いです。名護市の旧久志村ですね、旧久志村の場合には白抜きの○、あるいは黒の●。あと汀間とか大浦とかは□の現在も経営しているところです。

今婦仁村になりますと、20年前の沖国大の調査時にはかなり残っていたし、その詳しい報告も出ているんですけども、今では一部を除いてほとんどなくなってますね。本部町は全部なくなった状態。あと恩納村が非常に極端な形で、存続している所と存続していない所というふうに。あと離島の方、下の方は石垣市、竹富町は先程の分布図で見ていただいた通りです。現在もほとんど直営という形で経営しています。

私たち研究グループの議論の中で上原先生が言っていたのは、どうも時代によって共同売店前線みたいなものがあるのではないかということです。立地条件によってある時期はここまでだったら線が引けるのではないか。ここまでだったら共同売店が何とか成り立つという意味での、共同売店前線です。あるいは、この線よりうしろだと、共同売店が成り立たない。そういうその共同売店前線みたいなものが時代によってあるのではないかということです。

そうすると現在においてはちょうど名護市以北ですね。西海岸の場合には大宜味村と名護市の間、東海岸の場合には名護市と宜野座村の間というような所で現在の共同売店前線が引けるのではないのでしょうか。それは様々な自然地理的なあるいは人文地理的な特性によって規定されている、というのが、上原さんの仮説だと思います。

その立地ですが、先ほど金城先生の方から報告があったように、村落内において、最初は、大抵は公民館と一緒にとか、公民館の側とか、要するに集落の人にとって便利であるような所に立地する訳ですね。それが道路ができると、外部の人に対して売り上げを上げようということで建て直しをするということがあります。これは沖国大の報告にもありますが、こういったことがこの20年間でかなり顕著になって、後で小林先生の報告であるように、例えば慶佐次などは大通り沿いに移転することによって、かなり経営の状態が良くなったという例があるようです。

レジユメ一番左側の下の「二極分化」については私の報告でもやりますけれども、共同売店というのは、その立地や経営など多様化はしているんですけども、どうもその多様化しながらも、大きく二つに分かれているのではないかと思います。

つまり経営的に総体的にうまくいっている共同売店と、本当に細々とやっていて何でこんな小さな村でこんな小さな品物もあまりないような共同売店が、なぜ続いているんだろうと思われるような所。訪れる人の方がかえって不思議に思うような共同売店。これはもちろん極端に理念化して言っています。そういったふうに二極分化しているのではないかと思われるのです。

ということで、上原先生に代わりまして報告させていただきました。

司会 どうもありがとうございました。私も打ち合わせの時に共同売店前線、フロントというようなご指摘とか聞きました。地理学からのアプローチとしていろいろ面白い発見もなされているのではないかなと期待していたところです。また二極分化の問題も大きい問題をはらむと思います。質疑応答という形にはならないのですが、第二部につなげる形でちょっとコメントとか、こういうことを話題にしておきたいという方がいらっしゃればちょっとご発言をしていただきます。もし、あえてなければちょっと時間が押してますので、このまま進行させていただきますが、もしそのようなコメント、あるいは二部で議論しておきたいということがございましたらば、挙手してご発言していただければと思います。どうぞ、お願いいたします。議論の材料を出しておいた方がいいです。

フロア—— 字別の分布を示した今のご紹介の資料の右側ですね。そこに黒抜きの●、▲、■これは廃止された共同店となっておりますが、この廃止の時点というのは沖国大調査の時点で廃止という意味でしょうか。

司会 この廃止したのはどの時点か、調査時点ですか、それちょっとお願いします。

宮城 これは我々の調査時点です。要するに黒い色が塗られているのは現在の調査時点で廃止されているという意味です。

司会 こういうことですかね。それは行ってみたら今廃止の状態だったということを表わすのか、あるいは何年前にどういう経緯で廃止したというところまでを見ているのかどうか、そこら辺のことを。

宮城 それについては先程ありましたように調査表を回収できた所とか、あるいは直接行った所は確認できてますけれども、確認できてない所もあります。ただ、今おっしゃったように行ってみたらなかったと、やってなかったというので確認してあります。

司会 よろしいでしょうか。ありがとうございます。他にも議論を第二部につなげるという形でコメントしていただければ。はい、お願いします。

フロア—— 大宜味村の所に田嘉里が四角になってますね。そして名城になってますけども、これ謝名城という所なんですけど、感謝の「謝」が入ります、前にですね。謝名城の字を入れていただきたいと思いますが、そちらが四角になってますけれども丸です。

司会 確認できましたか。皆さんに伝えていただけますか。大宜味村の……。宮城さん確認してみてください、どこでしょうかね。

宮城 恐れ入ります。右側の方ですね、大宜味村の田嘉里が……「謝名城」の「謝」が抜けてますね。失礼しました。

フロア—— 「謝」が抜けてますね。それからこちらは丸です。白抜きの○になります。

宮城 今現在直営だということですね。どうもありがとうございました。すみません、ちょっとミスもあると思うんですけど、ちょっと言い訳ついでに面白い事例をお話したいと思います。というのは、私たちが調査している時点（およそ3年かけてやっています。）3年目の最初に行った時には経営していたけれども2回目に行った時にはもう閉店してしまっていたとかですね。例えば非常に経営的にうまくいっているように見えた共同売店でも、店主が急に亡くなったということで、店主が亡くなって店を閉めて、次の店主が見つからないというような例もたくさんありました。今日、具体的にご報告できないのが残念なのですが。どうもご指摘ありがとうございます。

司会 今の急速な変化ということは本当に大きいと思いますね。上原先生がこの間打ち合わせの時に、八重山ですね、星野でしたか、覚えてらっしゃいますか。自分たちが調査をしたその翌日に閉店した所がある、伊野田でしたっけ。そのようなこともあって、かなりこれはすごく言葉は悪いけど絶滅的種みたいですね生物学の、急がなくちゃいけない調査で、本当にこの共同研究を実施された方たちも、時間との勝負だという形で調査されたのではないかと思います。

どうもありがとうございます。